

清泉女子大学本館

島津家鹿児島本邸 謁見の間

東京と鹿児島 二つの島津邸をめぐる近現代

令和7年11月8日(土)
13:30~17:30

入場無料

オンライン
配信あり

- | | |
|-------------|---|
| 10:00~12:00 | 鹿児島会場 小林准教授のガイドによる鹿児島城下町まち歩きツアー(先着15人) |
| 12:30~ | 東京会場受付 |
| 12:50~13:20 | 東京会場 清泉女子大学本館見学ツアー ※清泉女子大学学生によるガイド(先着40人) |
| 13:00~ | 鹿児島会場受付 |
| 13:30~ | 開会・講演 |

「近世・近代鹿児島の島津邸」 鹿児島会場より登壇

小林 善仁 氏(鹿児島大学法文学部准教授)

「袖ヶ崎屋敷の変遷 —仙台伊達家から鹿児島島津家へ—」 東京会場より登壇

狐塚 裕子 氏(清泉女子大学名誉教授)

「近代建築史の中の旧島津家本邸」 東京会場より登壇

石田 潤一郎 氏(武庫川女子大学教授、京都工芸繊維大学名誉教授)

「大名華族島津家の家政と二つの邸宅 —袖ヶ崎島津邸と磯島津邸を中心に—」 東京会場より登壇

寺尾 美保 氏(立教大学特任准教授)

- | | |
|--------|---|
| 16:50~ | 討論「東京と鹿児島が交流しながら、島津家および島津邸の歴史をいかに伝え、未来に活用していくか」 |
| 17:30 | 閉会 |

会場

要予約

東京会場

定員
200名

清泉女子大学 140教室

〒141-8642 東京都品川区東五反田3-16-21

鹿児島会場

定員
25名

尚古集成館 講堂

〒892-0871 鹿児島県鹿児島市吉野町9698-1

申込方法

- 東京会場(清泉女子大学)への参加もしくはオンライン(Zoomウェビナー)での参加をご希望の方は、右の二次元コードから専用フォームにアクセスし、必要事項を記入のうえお申し込みください。
- 鹿児島会場(尚古集成館)への参加をご希望の方は、下記のメールか電話でお申し込みください。
鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター
E-mail: kingendaijim@leh.kagoshima-u.ac.jp TEL: 099-285-7532(担当/佐藤、江)
- 鹿児島会場での街歩きツアーの詳細については、「鹿児島の近現代」教育研究センターHPをご覧ください。

【応募締切】 2025年11月7日(金) 17:00まで

※東京会場・鹿児島会場ともに、定員に達し次第応募を締め切らせていただきます。

東京会場
オンライン参加



鹿児島会場



※清泉女子大学構内に駐車場はございません。
尚古集成館の駐車場は有料です。

東京と鹿児島 二つの島津邸をめぐる近現代

このシンポジウムでは、島津本家があった清泉女子大学の地と鹿児島の本邸があった鹿児島市磯一ふたつの島津邸を通して、島津家の歴史や島津家に関わった人々、島津家の行った事業などについて考えるとともに、多くの鹿児島出身者が活躍の舞台とした東京と鹿児島の繋がりについて考え、将来を展望します。

登壇者

こ ばやし だし と
小林 善仁



鹿児島大学法文学部准教授。昭和53(1978)年、長野県佐久市生まれ。平成22(2010)年、佛教大学大学院博士後期課程単位取得退学。平成19(2007)年から平成22(2010)年まで京都府亀岡市文化資料館嘱託職員。平成22年から鹿児島大学法文学部講師、平成26(2014)年から現職。専門は歴史地理学・古地図研究。鹿児島城下町をはじめ、麓集落や境内地など歴史的集落の景観形成と地域変容を研究すると共に、絵図や旧版地形図などの古地図に関する調査・研究を行っている。主な業績に、「絵図にみる鹿児島城と城下町」(鹿児島大学法文学部編『大学的鹿児島ガイド』、昭和堂、2018)、共著として、「史料と微地形からみた近世前期の鹿児島城下町の地形環境」(鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集90、2023)などがある。

きつね づか ゆう こ
狐塚 裕子



清泉女子大学名誉教授。1952年生まれ。1975年東京大学文学部国史学科卒業。1985年同大学院人文科学研究科博士課程単位取得修了。1991年清泉女子大学専任講師。2023年同大学定年退職(教授)。専門は日本近代史。主に日本近代の宗教政策や日朝関係について研究。清泉女子大学のキャンパスに関する研究としては「仙台藩大崎袖ヶ崎屋敷の終焉、そして島津家へ」(『清泉文苑』32号2015)、「もう一つの島津公爵家袖ヶ崎本邸 ーまぼろしの和館ー」(同33号2016)など。

いし だ じゅん いち ろう
石田 潤一郎



武庫川女子大学名誉教授。1952年鹿児島市生まれ。京都大学工学部建築学科卒業。同大学院博士後期課程研究指導認定退学。京都大学助手、滋賀県立大学助教授、京都工芸繊維大学教授。2018年に退職し、同大学名誉教授。現在、武庫川女子大学建築学部教授。工学博士。専門は日本近代建築史、都市史。主な著作に『都道府県庁舎―その建築史的考察』(思文閣出版、1990年)、『関西の近代建築』(中央公論美術出版、1996年)、『関西のモダニズム建築』(監修・共著、淡交社、2014年)など。

てら お み ほ
寺尾 美保



立教大学文学部史学科特任准教授。博士(文学)。専門は日本近代史。東京大学大学院人文社会系研究科博士後期課程単位取得退学。尚古集成館学芸員として20年間勤務の後、2023年より立教大学文学部史学科(日本史学専修)特任准教授。島津家を主な事例として、〈大名華族〉の近代における変容と適応の過程や、華族による家史編纂について研究している。主な著書に『天璋院篤姫』(高城書房、2008年)、『みんなの篤姫』(南方新社、2009年)。論文に「明治初期における華族意識の形成」(『日本歴史』878、2021年)など。